

【学年】 6 年	【教科・単元名など】 理科 人や動物の体
【実践内容】 血液のはたらきを調べよう 「血液が流れるようすを調べる」 ①体のいろいろな部分で、脈拍の感じ取れるところを探し、その数を数える。 手首で、首で、こめかみで・・・ <u>聴診器で・・・</u> 心臓の鼓動と脈拍を結びつける ②人体模型(掛け図)を使って血管の流れを調べまとめる ③血管が正しく脈拍を打っているのはどうしてだろうか？ 心臓と脈拍の関係を考えさせる     人体模型 人体模型(透過式) 臓器チョッキ	
【反省】 理科の学習において実際に自分の五感を使って実験を行うことはとても大切なことであると考え る。人体の学習は見える部分と見えない部分の両方を学習するわけだが、子どもたちは見えない部 分の学習により興味を持つ。今回は、聴診器を使つての学習が知的好奇心を刺激し、とても意欲的 に取り組めた。自分や友達の心臓の音を聞いてみることによって見えないはずの心臓の動きが大ま かに感じる事ができた。ただ、聴診器の数が足りないので一人ひとりに十分な活動をさせること ができなかったのが残念である。 血液の流れは、人体模型(透過式)を使った。本校には、「人体模型」「人体模型(透過式)」「臓器チ ョッキ」の3種類の学習資料があるが、上手に使い分けて見えない部分の学習に有効に使っていく 必要があると思う。 <参考文献>	